

◆地域活動

今帰仁地域における魚食普及への取り組み

(未来のマリンパワー確保・育成一貫支援事業)

水産海洋技術センター本部駐在 上原匡人
今帰仁漁業協同組合 山川太清
水産課 高橋晶子

1. 目的および経緯

今帰仁漁協では約 70 名の組合員が所属しており、各漁業者は、主に潜水器、延縄、一本釣り、刺網など漁船漁業に従事している。しかし、今帰仁漁協ではセリを開設しておらず、漁獲物の多くが名護漁協のセリ市場に並ぶことから、地元で水揚げされた水産物が村内で流通することは少ない。そのため、地域の水産業や水産物について関心・理解を深め、消費を拡大する取り組みが課題となっている。

本取り組みは、今帰仁漁協が主体となり、未来のマリンパワー確保・育成一貫支援事業を活用して、地元の小学生を対象に、地元で取れた水産物を料理・試食することで、地域の水産業について関心や理解を深め、魚食普及の推進を図ることを目的として実施された。

2. 活動内容

日時：平成 27 年 11 月 27 日 13:00～16:00

場所：今帰仁村立天底小学校家庭科室

対象：5 年生 25 名

講師：今帰仁漁協 組合員 5 名

内容：生徒 5 名が 1 グループをつくり、“たまん”の捌き(3 枚おろし)と魚料理(盛り付けを含む)を体験する。

3. 今後の課題

本取り組みは、今帰仁漁協に所属する若い漁業者 5 名が講師役(生徒 5 名に漁業者 1 人が対応)として参加し、直接、生徒に捌き方や料理の方法を教授したことからも意義深い取り組みであった。また、生徒からも好評であることから、今後、どのように発展・継続させていくかが課題となろう。特に、今帰仁漁協では“たまん”、“あかじん”、“まくぶ”の資源管理を推進しているが、その活動の効果や苦勞など漁業者が自らの思いや体験を説明することにより、魚食普及以外の効果も期待される。今帰仁村内には、天底小学校以外にも今帰仁、兼次の両小学校があるが、これら 2 校では、同様の取り組みの実施には至っておらず、関心・理解の深化や魚食普及のためには、さらなる取り組みが必要である。



山川氏より今帰仁村の水産業について説明



漁業者から魚の捌き方を伝授



生徒が盛り付けした“たまん”の刺盛



自ら調理・盛り付けした料理の実食



水産教室を体験しての感想を話す女子生徒